

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

日本臨床外科学会国内外科研修を終えて

群馬大学総合外科学

大曾根勝也

今年の5月に、上司である消化管外科教授佐伯浩司先生より日本臨床外科学会の国内外科研修制度の募集があり、兵庫医科大学の炎症性腸疾患外科での研修に応募してみないかとお声をかけていただきました。自身は外科医を志した時から炎症性腸疾患の外科治療に興味を持っており、2年前にも一度希望していましたが、その際にご縁がなく半ば諦めておりました。しかし今回は、様々な方々に支えていただき応募させていただくことができ、無事に採用していただくことができました。実際に研修期間となるまでの間、COVID-19の感染拡大があり研修はできないかもしれないと思っていましたが、幸いにもある程度感染の縮小もあり、無事に学会より研修の許可をいただき、令和2年9月28日から10月23日までの4週間の長期間にわたり研修をさせていただきました。

炎症性腸疾患における外科治療の分野において兵庫医科大学といえば、昨年潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘術が2,000例を超えた日本が誇る high volume center です。学会などで主任教授である池内浩基先生のご講演を聞いて勉強してきた身としては、兵庫医科大学で研修できるということは夢のようであり、身の引き締まる思いでした。また私自身、群馬大学の関連とは異なる施設での研修を行ったことがなく、関連以外の病院で研修を行うというのは初めての経験でした。そのためか、研修初日は非常に緊張して医局に伺ったことを覚えています。それを察していただいたのか池内先生を始め炎症性腸疾患外科のスタッフの方々は優しく受け入れていただき、冗談まじりの自己紹介とともに私の緊張を和ませていただきました。兵庫医科大学炎症性腸疾患外科のスタッフは、池内先生を始め7人と少数精鋭で日常診療と急患対応に当たられており、もっと多くの先生がいらっしゃるかと思っていたので意外でした。またその忙しい臨床業務の中、国内外の学会発表や論文などの執筆も精力的になさっており驚きを禁じ得ませんでした。7人のスタッフのうち4人は自分と学年が近く、同世代の先生が多く症例を経験されており、また業績を積み重ねているのを間近に見させていただいて、自分も負けていられないととても良い刺激になりました。

実際の研修内容ですが、COVID-19流行の影響で手術症例が少なくなっているのかと思っていましたが、研修期間中は通常とほとんど変わらぬ症例数とのことでした。主なものは潰瘍性大腸炎の回腸囊肛門吻合が3例、Crohn病に対する腸管切除が4例、直腸切断術が3例（1例、Crohn病2例）肛門病変の手術が4例、転院搬送2例でした。回腸囊作成の手順や注意点、会陰操作のコツや注意点、Crohn病では狭窄形成術と腸管切除の使い分けや腸管吻合に対する考え方、直腸切断術の適応や注意点、特有の肛門病変に対する考え方や手技、また群馬では経験したことのない緊急性を要する症例の対応など、教科書など出版物からでは学ぶことのできない炎症性腸疾患特有のテクニックや術中判断のロジックなど貴重なことを学ぶことができました。手術以外では外来診療も見学させていただくことができました。まずは西日本一帯を中心にかなり広範囲から患者さんがいらしていることに驚きました。関西圏はもちろん、四国中国地方はおろか九州、遠くは関東からも通っていらっしゃる方がいました。忙しい外来の中でも一人ひとり丁寧に患者さんの診療に当たられており、また患者さんは非常に先生方を信頼しており、まさに今までの診療の賜物であると感じました。多忙な外来診療の中でも、初診の患者さんに対する気配りや説明の仕方、術後フォローの注意点やトラブルが起こったときの対処方法、さらには今後起こ

てくるであろう問題点などもご教授いただきました。特に、日本人のCrohn病に多い肛門病変に対する対処方法や考え方を学べたのは大変勉強になりました。病棟管理に関しては、月曜～木曜まで毎朝池内先生が精力的に回診をなさって病棟の患者さん一人一人に気を配られており、また学生への指導も手厚く行っている姿に感銘を受けました。また週1回開催される炎症性腸疾患外科内科カンファレンスでは活発に議論がなされ、外科と内科のスムーズな連携をとられているのは大変参考になりました。その他に週1回消化器外科全体のカンファレンスも開催されており、そのカンファレンスで丁度当番であった池内先生のミニレクチャーも拝聴することができました。炎症性腸疾患という特有の病態での判断には専門知識が必要ですが、群馬ではなかなか遭遇する機会の少ない疾患を毎日学ぶことができ、群馬での数年分以上になる濃厚な研修を行うことができました。今回の研修で得た知識を元に、群馬における炎症性腸疾患の外科治療を発展させていきたいと考えています。

最後にこのような機会を与えてくださった、日本臨床外科学会会長万代恭嗣先生、国内外科研修委員会委員長高山忠利先生、日本臨床外科学会のみなさま、受け入れてくださった兵庫医科大学炎症性腸疾患外科池内浩基先生、スタッフの皆さま、またご推薦いただきました日本臨床外科学会群馬県支部長 調憲先生、群馬大学総合外科消化管外科佐伯浩司先生、4週間もの不在を許可していただきました群馬大学総合外科スタッフ一同に感謝して、日本臨床外科学会の国内外科研修の報告とさせていただきます。